



ノアの爽^{かぜ}風



～目次～

- 病院短信『貼るワクチン』
- 看護日誌
- 作業療法室だより
- 日常の一コマ

4月の予定

◆誕生日会

1病棟: 10日 (金) 14:00～	} 各病棟にて
2病棟: 9日 (木) 14:00～	
3病棟: 8日 (水) 14:00～	



日常のーコマ

今月は2病棟の玲子さん（92歳）です。玲子さんは坂戸市出身で8人兄弟の4番目で生まれました。ファッションに憧れ、短大の被服科で洋裁を学びました。卒業後は国土交通省の河川事務所や代議士秘書を務めてこられました。28歳の時にお見合い結婚され、長女さんを授かりました。長女さんに玲子さんの思い出話を伺ったところ「洋裁が上手で私の服を作ってくれることが自慢でした。」「とても明るく元気な性格で、母の友人がよく家に遊びに来ていました。」「私が学校から泣いて帰ったりすると、明るく励ましてくれた反面、礼儀やマナーのしつけは厳しい母でした。」とお話してくれました。45歳で運転免許を取った後88歳まで無事故で近隣はどこでも車で行かれていたそうです。ご主人が亡くなった後も1人で生活されていましたが、娘さんの住むマンションの段差の無い階へ引っ越し、ここでも1人で生活されてこられました。89歳の頃から同じことを何回も聞いてくるが多くなったという認知症状が出始め、91歳の時にアルツハイマー型認知症と診断されました。また、この年自宅で転倒して骨折してしまい、手術を受けリハビリ病院に転院されました。そこで認知症が進行してしまい、会話が通じなくなったり、大声や夜間不眠といった症状が出て娘さんが病院に泊まったりしたこともあり、在宅生活に戻るのには難しく令和7年7月に当院にご入院されました。



入院後は落ち着きを取り戻し、元来の明るく社交的な性格で同席の患者さんともすぐに仲良くなり楽しそうに過ごされています。玲子さんはとても聞き上手で、相手の方の話を熱心に聞き、時には相談に乗っているのか、優しく励ましたりしています。時々帰宅願望が出てしまうこともあります。「娘さんが面会に来てくれますよ」と伝えると安心した表情になり、いつもの明るい玲子さんに戻ります。先日娘さんが面会に来られた時は、代議士秘書をやっていた血が騒いだのか、先日行われた選挙の結果を気にしていたそうです。いつまでも明るい笑顔の玲子さんでいられるようケアしていきたいと思います。

作業療法室だより

今回は、定番活動のひとつ【体操】についてご紹介します。

病棟のデイルームで行うこの活動は日付や天気の確認から始まり、前半の体操、後半のゲームや歌といった二部構成となっています。体操ではリーダー役となり率先して会の進行を援助してくださる方、盛り上げ上手の方、中には会の輪の中で過ごされることで安心される方もいらっしゃいます。次回も活動紹介お楽しみに！



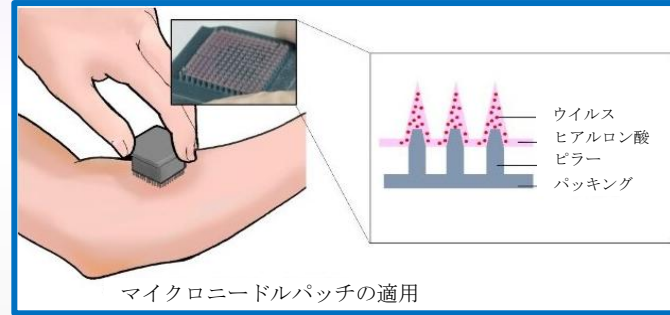
病院短信

3病棟 担当医

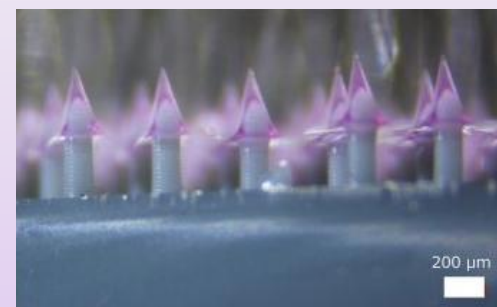
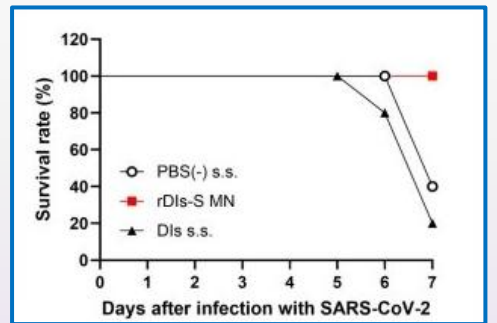
『貼るワクチン』
ワクチンが苦手な方いらっしゃるでしょうか？そんな方に希望のあるお話を少ししたいと思います。ワクチンに対して人はそれぞれ様々の想いをもっていらっしゃるのです。色々な理由でためらう人もいらっしゃると思います。その一つに注射がどうしても、という方がいらっしゃると思います。それをなんとかしたいと貼るワクチンが研究されています。これは解けて吸収される素材でできたマイクロニードルという微細針を活用するものです。マイクロニードルはステンレスやガラスで作成されたものがありましたが安全性が課題だったところ、皮膚に元々存在する成分のヒアルロン酸で作成されました。ワクチン開発の前に美容成分の皮内吸収を目的に製品化され既に市販されているそうです。

※左下図マイクロニードルパッチの適用とパッチモード図（東大生産技術研究所プレスリリースから）

マイクロニードルという長さ数百マイクロンの微細針を支持基盤の上に3Dプリント技術を用いて作成されます(下図)。このマイクロニードルはヒアルロン酸またはセルロースでできており体の中で溶解される無害です。マイクロニードルの先端部に新型コロナウイルスを含む溶液を充填させ、乾燥させます。出来上がったワクチンパッチを皮膚に密着して5分！で接種完了です。皮膚の浅い層(表皮・真皮)0.5〜1.0mmにワクチン成分が届き、皮内には免疫反応を誘



※右図 作成したマイクロニードルとSARS-CoV-2感染モデルの結果。本実験条件下でマイクロニードルを接種したマウスはウイルス感染を行ってもすべてのマウスが生存した。(東大生産技術研究所プレスリリースから)
結果は新型コロナウイルススパイクタンパク質特異的 IgG 抗体と中和抗体が誘導されました。さらに、新型コロナウイルスへの暴露試験では全個体マウスが生存し、体重減少も見られません。また病理学検査でもウイルスは検出限界以下または低減していました。
この貼るワクチンが人にも使用が認可されれば、①注射の痛みがない他にも、②医療従事者によらず、自分で貼って接種でき、短時間で完了する。③常温で輸送、保管ができる(発展途上国でも非常に大きなメリット)。ただし研究者グループは、「ヒトへの倫理応用には、安全性・倫理性を含めた慎重な検討と長期的な研究が必要」としています。
インフルエンザの経鼻ワクチンが注目されるように痛くないワクチンは多くの人に期待されそうです。



導するランゲルハンス細胞が多く分布しています。これを4週間隔で2回行います。
現在はマウスを実験動物とし研究中で、令和8年2月に東京大学等の研究者グループからその成果が発表され論文となっています。

看護日誌

春風が心地良い季節がやってきましたね。花粉症の私には少しつらい季節でもありますが…
今年も院庭に咲く満開の桜や、桜吹雪の中を患者さんとお散歩に出かける事を想像すると幸せな気持ちになり心が躍ります。患者さんと桜の下で歌をうたいながら楽しい時間が過ごせるよう、心身ともに健康でいられるように体調管理、頑張りたいです。